

# (仮称)長崎恐竜博物館基本計画 概要版

## 第1章 博物館の基本理念とその特徴

### 1 基本理念

あらゆるテーマを対象とした総合自然史博物館ではなく、国内で初めて発見されたティラノサウルス科大型種の化石など、他では見られない長崎市産の「恐竜」を中核テーマとし、石炭ができた時代を経て現代に至るまでの長崎市特有のストーリーを活かした特色のある博物館を目指すため次の4つの基本理念を掲げ博物館建設を目指す。

- (1) 長崎の資料を収集、保管し、国際的に通用する調査研究を実践する施設
- (2) 恐竜を中核とした長崎の魅力について、子どもから大人まで楽しめる施設
- (3) 研究成果の情報を広く、分かりやすく提供し、さらなる魅力を高める施設
- (4) 知的関心や学校教育のニーズ、および地域を育む学習を支援する施設

### 2 博物館の特徴

#### (1) 進化し続ける恐竜博物館

新しい研究成果を継続的に発表し展示していくことを博物館の進化と位置付け、進化を支える白亜紀後期の三ツ瀬層を中心とした発掘作業と調査研究に注力していく。この進化を継続させることは博物館のさらなる魅力を高めることになり、進化する博物館として多くの人々の関心を集める。

#### (2) 白亜紀後期の恐竜化石研究の拠点を目指す博物館

長崎市に広がる白亜紀後期の三ツ瀬層からは多様な恐竜などの化石が多産するため、それらの資料を計画的に収集、保管し、独自のコレクションを構築する。また、これを活かすためCTスキャナなどの最新の設備を整備して先進的な研究に取り組むとともに他の博物館や大学との学術交流を積極的に進めることで、白亜紀後期の恐竜化石における研究拠点となることを目指す。

#### (3) 地域資源を活かす博物館

来館者の知的好奇心を満たすための多様な体験型学習事業を実施するため化石発掘場所の活用や、世界遺産である軍艦島の景観や石炭生成の歴史を紹介するなど地域資源を活用して地域の魅力を高める。

#### (4) 地域振興に寄与する博物館

来館者に対して野母崎地域の周遊への誘導や、地元と連携し地域の特産を活かした商品開発やイベント企画を行い、さらには博物館で不足するサービスなどを周辺の民間施設などの地元の力を活用することで地域の活性化に寄与する。

## 第2章 基本機能と活動計画

基本機能	活動計画
資料収集	(1)博物館の魅力の向上に結び付く資料の収集活動を行う (2)研究資料を収集する (3)展示資料を収集する (4)学術情報を収集する
資料管理	(1)資料を適切に管理するデータベースを構築する (2)資料を適切に保管する
調査研究	(1)長崎の自然史資料の真価を見出す (2)白亜紀後期の恐竜化石研究の拠点を目指す (3)作業者の技術的育成を図る (4)学術ネットワークを構築する (5)展示の魅力向上に関する研究を行う (6)教育活用研究を支援する
展 示	(1)長崎らしい特色があり、印象に残る常設展示を構成する (2)効果的で楽しい展示手法を活用する (3)来館者のニーズに対応した展示解説を行う (4)常設展にない内容や新しい知見に関する企画展を実施する (5)教育と学習に利用できる展示とする (6)子どもが楽しく学べる展示コーナーを設置する
教育普及 学習支援	(1)講座などへの参加者の理解度に合わせた教育普及活動を実施する (2)学校教育と連携した教育プログラムを実施する (3)学術的な内容に対応したプログラムを実施する (4)質の高い教育普及活動を提供する人材を育成する (5)地元市民らが参加する生涯学習活動を支援する (6)教育普及活動を行うために周辺施設を活用する
情報提供 広 報	(1)資料の管理用データベースを一部公開する (2)博物館の認知と誘客のために広報物やメディアを活用する (3)地域の情報を発信する <div style="float: right; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px 10px;">地域振興への寄与</span> </div>
利用サービス	(1)団体客へのサービスを向上させる (2)快適性を高める空間づくりを行う (3)観光案内インフォメーションを設置する <div style="float: right; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px 10px;">地域振興への寄与</span> </div> (4)レストラン機能は民間(地域)の力を活用する
+	
その他の活動	(1)地域との連携: イベントの企画などの連携 <div style="float: right; margin-top: 10px;"> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 2px 10px;">地域振興への寄与</span> </div> (2)市民との協働: ボランティアの育成と連携

# 第3章 展示計画

## 1 展示の種類

- (1) 常設展示:基本構想の常設展示テーマに沿った展示内容の構成
- (2) 企画展示(不定期開催):独自企画、他館との合同企画、民間の巡回企画展の誘致など
- (3) オープンラボ展示:各研究室での作業の解説など
- (4) 収蔵展示:収蔵庫の通路側で常設展示会場に展示できなかった資料の展示など
- (5) その他の展示:エントランスにおいて他館との提携資料の展示など

## 2 展示手法

長崎で発見された恐竜化石を中心に「生命の歴史」・「恐竜の多様性」・「地球の環境変化」を分かりやすく楽しく理解させるために次の展示手法で構成する。

なお、最新の映像技術による参加型展示や動きのある復元やジオラマなども採用する。

### 空間演出

造形・照明演出・骨格標本の配置などを含めて空間全体で、恐竜時代・長崎らしさ・雄大な時間の流れを感じさせる演出。

### ストーリー演出

1つ1つの展示コンテンツに繋がりをつくり長崎で発見された化石が恐竜の研究で重要な役割をもつことを感じさせる演出。

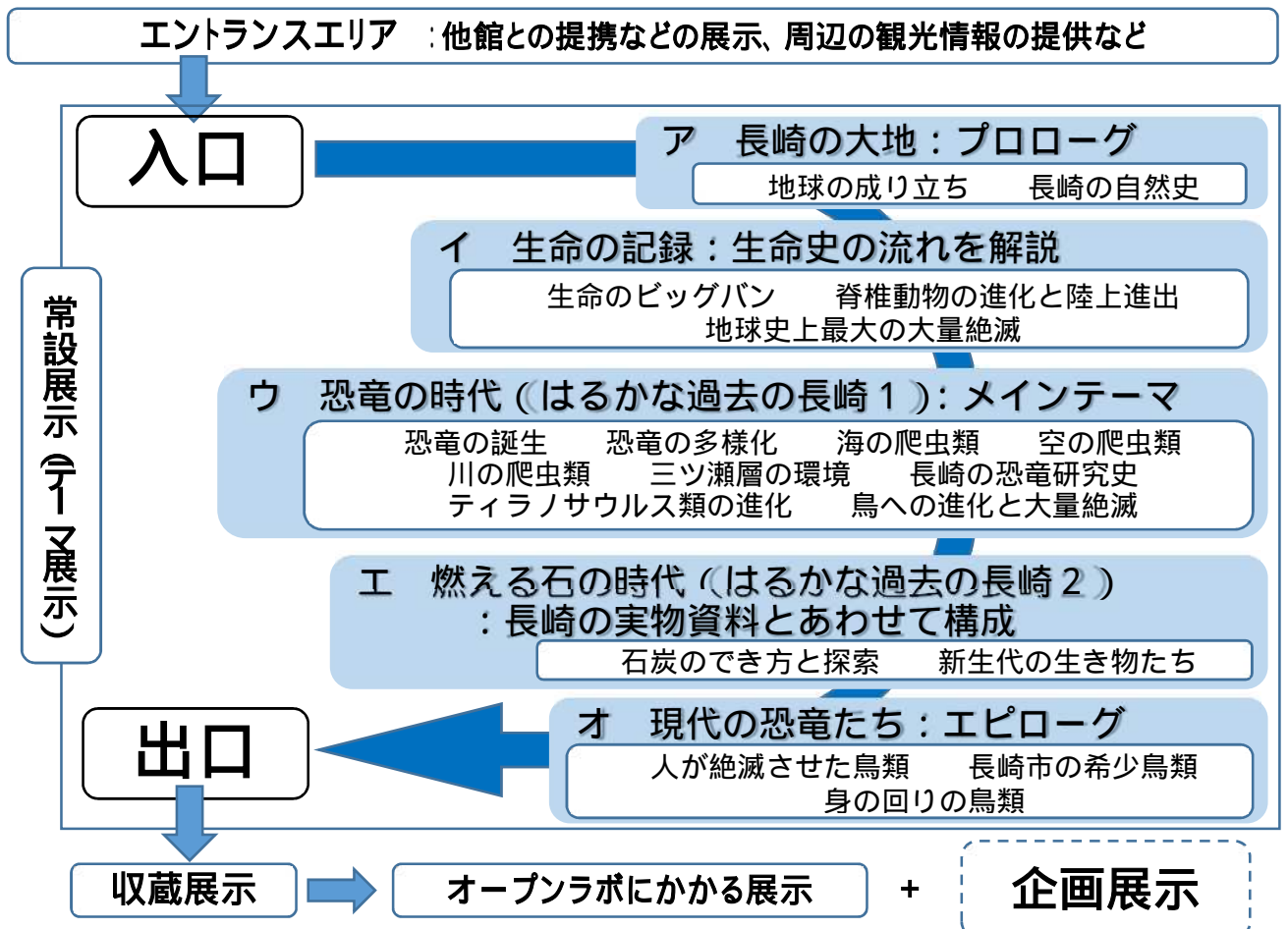
### 資料演出

長崎市産化石の研究成果を踏まえて、資料の見方を分かりやすく伝え、化石などから生物の起源に迫ることを感じさせる演出。

## 3 展示ゾーニング

「ア 長崎の大地」「イ 生命の記録」「ウ 恐竜の時代」「エ 燃える石の時代」「オ 現代の恐竜たち」の各テーマを、理解しやすいように時系列順に配置する。

また、来館者の動線に関しては次のとおり。



## 第4章 情報計画

### 1 情報システムの基本方針

調査研究、展示、教育普及といった各種目的で収集された資料を登録管理し、幅広い利用者が有効かつ適切に活用できる状況にするため、データベースシステム等を構築する。

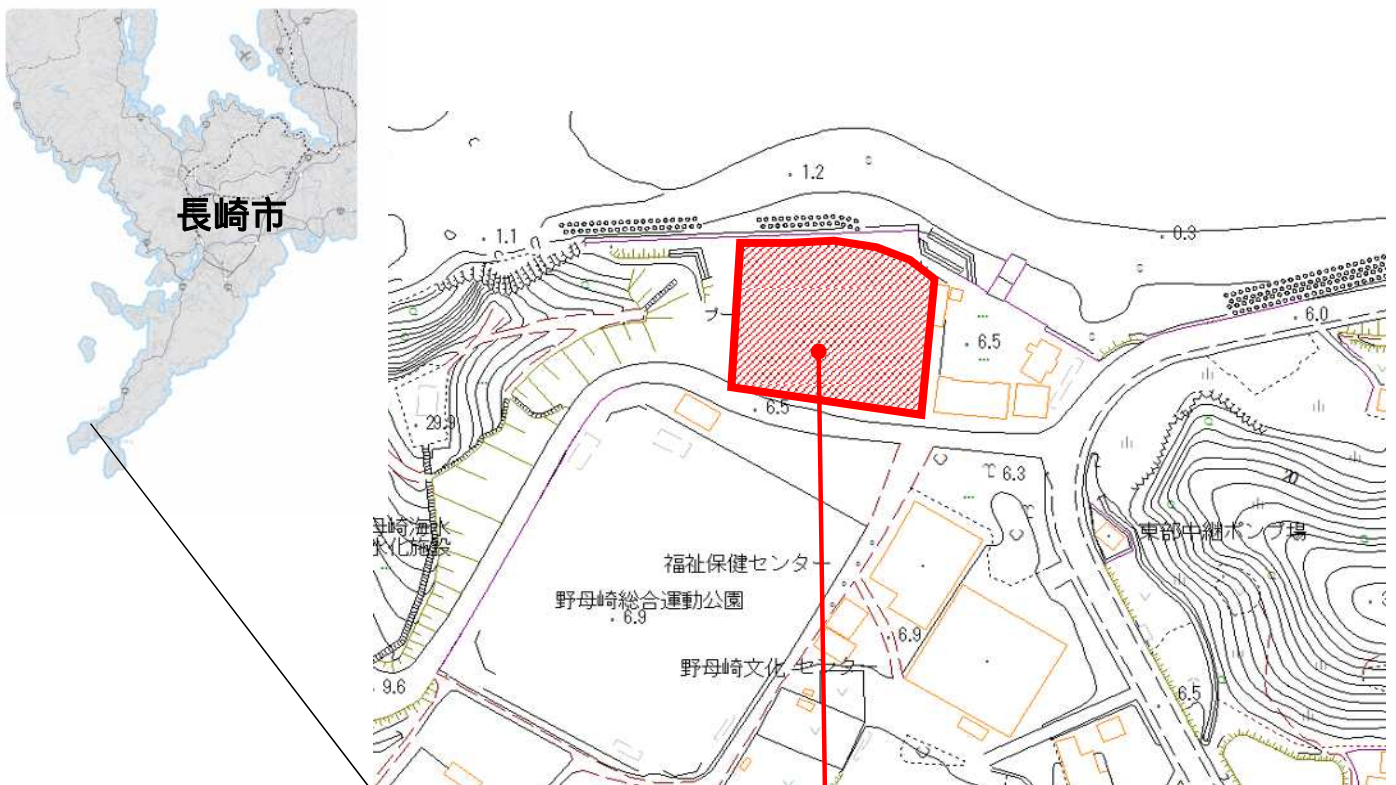
館内外のさまざまな場所における活用、長期的・永続的な活用を前提として、更新性、汎用性、安全性、経済性などについて考慮するものとする。

### 2 導入システム

- (1) 資料管理システム: 収蔵資料データベースなど
- (2) 展示サポートシステム: 展示解説情報データベースなど
- (3) 博物館ホームページ: 講演会や体験事業へのWEB 申請など

## 第5章 施設計画

### 1 建設予定地



2 入館者数の見込み: 122,747 人/年間

### 3 必要駐車スペース

ア 普通車: 70 台

イ 大型バス: 5 台

総合運動公園駐車場の利用を想定

住所: 長崎市野母町 563 番 1 号

敷地面積: 約 4,400 m<sup>2</sup>

## 4 建設スケジュール

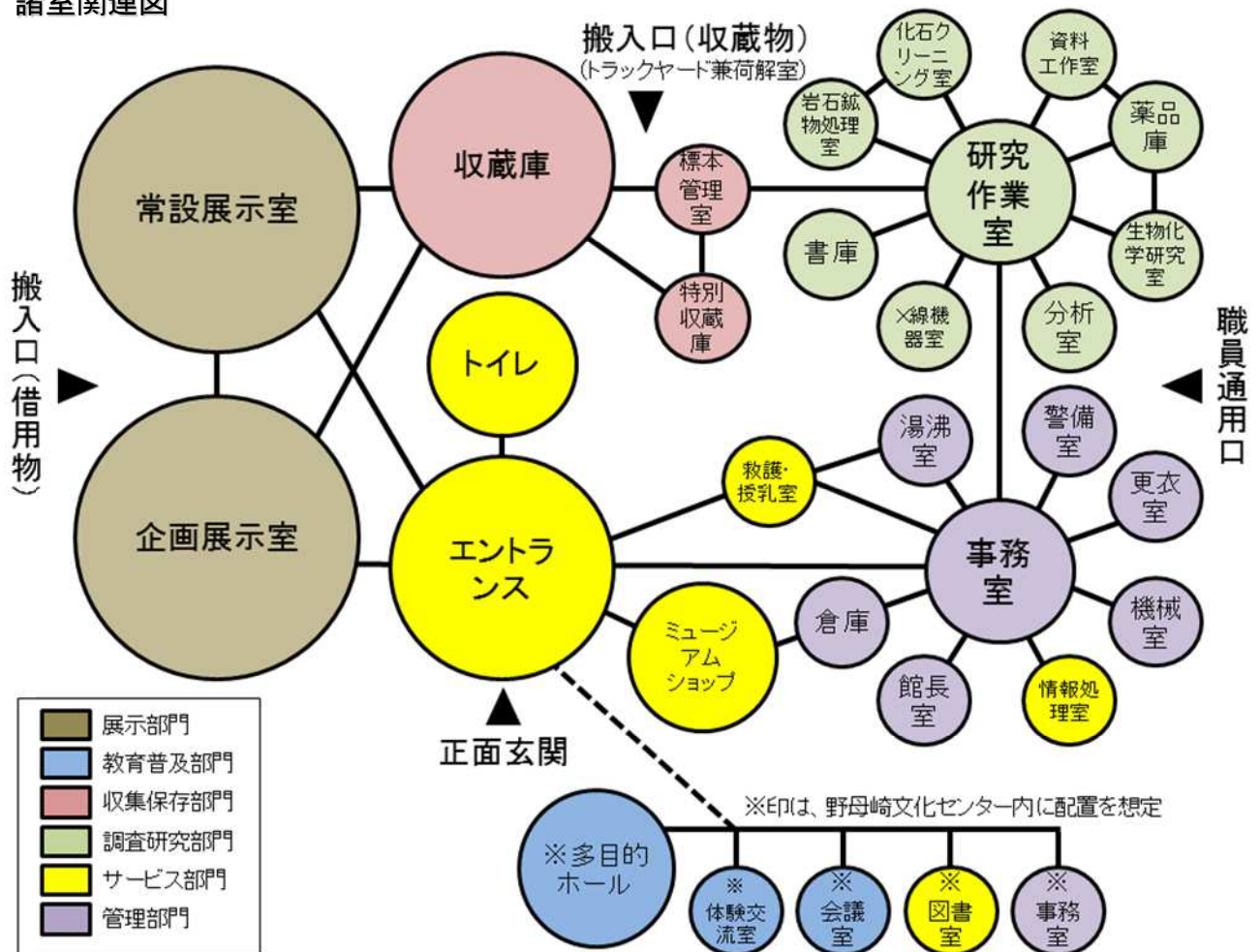


(平成33年10月開館予定)

## 5 延床面積及び諸室関連図

(1) 延床面積 およそ 2,254 m<sup>2</sup> (最終的な延床面積や諸室詳細面積は設計段階で確定する)

(2) 諸室関連図



(3) 諸室配置上の注意点

- ア 国道からの軍艦島への眺望や、南東側に隣接する軍艦島資料館に圧迫感と日影の影響を与えないように、天井高さが必要な展示部門を西側に配置する。
- イ 敷地中央に南北につながる通路(エントランス)を設け、ロビーに面して西側は展示部門、東側はサービス部門、収蔵展示部門及び調査研究部門を配置する。
- ウ 軍艦島を望めるゆとりある展望デッキを検討し、施設の東側には、調査研究部門を集中的に配置するなど利便性を高める。
- エ 展示室を見学する来館者の動線は第3章の3「展示ゾーニング」に示す通りで、この人の流れを考慮した配置とする。なお、展示室2階の視点場への人の流れについても考慮した配置とする。

## 6 概算工事費

(1) 建築工事(鉄筋コンクリート造で、杭工事費は含まれていない)	935,492,000 円
(2) 展示工事	303,450,000 円
合計	1,238,942,000 円

## 7 建築設計に際しての留意点

### (1) 景観へ配慮した設計

田の子地区から望む軍艦島への景観に配慮し、地域のランドマークとなる建物とする。また、施設の機能を表現する外観意匠をデザインし、旧長崎県亜熱帯植物園の植物を効果的に移植する。

### (2) 人と環境にやさしい施設をめざした設計

ユニバーサルデザインを採用し、バリアフリーな施設とする。  
環境負荷が小さく、省エネに配慮した設備を採用する。

### (3) 建設コスト及び運営コストに配慮した設計

建設コストを考慮した適正な諸室機能と規模を検討する。博物館としての魅力を損なうことなく、運営におけるコストや維持管理の容易さに配慮した施設(設備を導入)とする。

### (4) 災害対策を配慮した設計

建設地域や建物の特性に配慮した風水害及び塩害対策等を行う。

### (5) 効果的な動線を配慮した設計

来館者と管理部門の機能的な動線を確保する。

## 8 その他

(1) 市中心部から博物館までの道路沿線等に館の案内板や恐竜のオブジェを設置する。

(2) 長崎市出身者で「Dinosauria」を「恐竜」と日本で初めて翻訳した古生物学の父とされる横山又次郎東京帝国大学教授の記念碑を設置する。

## 第6章 管理運営計画

### 1 管理運営の基本方針

恐竜博物館の管理運営を行う組織は、調査研究及び教育普及を担う「学芸部」、施設管理及び利用サービス関連を担う「経営管理部」の2系統のグループと、それらの統括者「館長」から構成される。なお、管理運営業務については指定管理者制度を導入する。

### 2 各部門の役割

#### (1) 経営管理部門の役割

経営管理部門は、施設を円滑に管理、運営するための庶務や広報活動、利用サービス向上に向けた様々な業務を担う。

#### (2) 学芸部門の役割

学芸部門は、調査研究や教育普及活動など、専門的な知識や経験を活かした業務を担う。

#### (3) その他(ボランティア)の役割

必要な期間に、展示解説、クリーニング作業補助、化石発掘作業補助についてそれぞれ数名のボランティアが活動を担う。

### 3 休館日など

休館日、開館時間、利用料金



適切なあり方について、検討を進める